

---

# クリニックの外来診療

## クリニックの実施成績

小野良樹

東京都予防医学協会保健会館クリニック所長

### はじめに

東京都予防医学協会(以下本会)が運営する保健会館クリニックは、健康保険法による内科外来と専門外来、高齢者医療確保法による地域住民の健康診査およびがん検診を行っている。

内科外来は、地域住民の診療と職域での定期健康診断後の有所見者に対する診療と事後指導を希望に応じて実施している。

専門外来は消化器(肝臓を含む)、循環器、腎臓病、甲状腺、糖尿病、呼吸器、婦人科、乳腺科、更年期外来、整形外科、睡眠時無呼吸外来、禁煙外来、代謝外来の13科と小児相談室の計14科で構成される。

専門外来の受診者は、本会の1日人間ドック、労働安全衛生法による定期健康診断、学校保健法による健康診断、高齢者医療確保法による健康診査などで要精密検査・要受診と判定された人で、当クリニックの受診を希望した場合、または内科外来受診者で専門外来の受診を必要とされた人である。

診療には、クリニック常勤医、および外部(東京医科大学、慶應義塾大学医学部、東京慈恵会医科大学、順天堂大学医学部、日本大学医学部、日本医科大学、昭和大学医学部、癌研究会有明病院、東京警察病院、杏雲堂病院)の専門医らが当たっている。

本会の専門外来は非常勤医師に依存するところが多く、その分、行間の隙間が生ずることを懸念して常勤医が補完している。患者の利便を考慮し、一般・寄生虫検査科、血液生化学科、放射線科、生理機能科の協力を得て、なるべく即時診断を心がけている。

看護科は現在20人が在籍している。内科外来、専門外来の看護業務をそれぞれ交代で担当している。本会の看護師はがん検診追跡調査を分担しており、がん検診精度管理の一翼を担っている。追跡するがん検診は、胃がん、肺がん、乳がん、大腸がん、子宮がんに加えて、前立腺がんの6がんである。この努力が実って最近、本会のがん検診陽性反応適中度は向上しつつある。

このほか、本会危機管理委員会の下部組織であるリスクマネジメント部会を担当し、日々のリスク減少に努めている。この結果、最近、適度の緊張の下でインシデントが減少してきた。また、個人情報保護法に基づく教育も日常的に実施している。

### 診療報告

2009(平成21)年の年間受診者数は19,010人である。2008年に比較し、0.5%増加した。内科の年間受診者は4,428人(全受診者の23.3%、前年比107.2%)であり、専門外来の受診者は、消化器外来2,348人(全受診者の12.4%、前年比98.7%)、甲状腺外来3,910人(全受診者の20.6%、前年比89.7%)、婦人科外来2,619人(全受診者の13.8%、前年比113.2%)、乳腺外来1,603人(全受診者の8.4%、前年比99.1%)であった。

2009年は内科外来と婦人科外来の伸びが特徴的であった。婦人科外来の伸びは、同年導入された無料クーポン検診の影響と考える。

その他の外来数は表1に示すとおりである。主な専門外来を概説する。

表1 クリニックの月別・科別受診者数

(2009年度)

科	月													合計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
内 科	408	297	362	421	367	353	414	389	380	349	328	360	4,428	
消 化 器 (肝臓病含む)	143	126	157	160	221	201	211	208	229	231	196	265	2,348	
循 環 器	82	67	55	81	67	87	88	80	83	71	78	80	919	
糖 尿 病	66	57	65	70	78	65	76	85	59	67	79	79	846	
腎 臓 病	10	9	5	9	7	10	9	10	11	9	9	11	109	
呼 吸 器	54	46	64	85	40	57	53	73	93	59	59	89	772	
整 形	17	17	9	21	10	19	13	15	14	16	17	13	181	
乳 腺	123	97	141	133	91	131	155	124	143	142	158	165	1,603	
婦 人 科	158	128	214	261	254	214	232	233	220	186	246	273	2,619	
甲 状 腺	315	221	391	352	350	342	354	267	368	313	300	337	3,910	
更 年 期	35	38	46	39	42	35	28	46	34	23	23	27	416	
代 謝	20	13	16	17	2	12	23	14	18	14	14	12	175	
禁 煙	8	3	1	6	6	8	4	4	5	4	2	2	53	
睡 眠 時 無 呼 吸	9	11	12	13	14	13	14	14	15	14	15	15	159	
外 来 栄 養 指 導	5	2	5	4	3	3	3	2	2	3	2	3	37	
腎 臓 病	0	0	1	3	3	2	0	0	1	1	0	2	13	
貧 血	1	0	0	1	5	0	4	1	1	5	0	3	21	
コ レ ス テ ロ ー ル	4	3	5	2	6	4	6	4	6	6	5	5	56	
心 臓 病	21	14	9	7	20	12	8	11	2	3	6	9	122	
脊 柱 側 彎	12	16	15	18	33	18	17	13	24	8	18	31	223	
合 計	1,491	1,165	1,573	1,703	1,619	1,586	1,712	1,593	1,708	1,524	1,555	1,781	19,010	

甲状腺外来

担当は百溪尚子内分泌部長で、甲状腺分野で世界的に高名な学者で本邦のオピニオン・リーダーである。この外来の特長は、甲状腺に関する最新かつ先端的診療を実施していることである。このため都内はもとより、広く首都圏から患者が来院する。1週間に3日診療しているが、当然混雑を極める。しかし、患者本位の診療を行い、来院当日に検査結果を知らせる即日診断を原則とし、状態が安定している場合には郵送で結果を報告している。このように患者の不安を払拭し負担を軽減することに努めている。

子どものことを心配する両親には家族外来を月1回(第3土曜日)設け、小児科医と甲状腺専門医が同一の診察室で親子一緒に診察を受けられるように連携している。さらに患者のためにバセドウ病教室を開き知識の向上や、疾患の啓発活動を実践している。百溪医師以外に岩間彩香医師、井上ゆか子医師ら、いずれも女性医師が担当している。このように患者主体の診療を実施しており、クリニック外来部門の主役を担っている。

妊娠中の甲状腺ホルモン異常は母子へさまざまな悪影響を及ぼす。このため妊娠初期の甲状腺機能検査のスクリーニングは大きな意義がある。現在乾燥る紙血を用いてスクリーニングを実施している。詳細は妊婦甲状腺機能検査の項(P117)を参照願いたい。

乳腺外来

開設当初は東京都産婦人科医会の会員の紹介により、主に産婦人科開業医の先生方の視触診による乳がん検診の精密検査を行う目的で創設された外来であったが、日本の乳がん検診の変化とともに外来患者層の変化が見られる。最近では本会の地域・職域におけるマンモグラフィや乳房超音波検査を用いた乳がん検診で要精密検査と判定された対象者の精密検査がその中心となり、それに加えて他機関での要精査対象者や地元住民を中心に検診ではなく自覚症状などの症状受診の方も受け入れている。

外来診療の内容は、問診・視触診の後、マンモグラフィ、乳房超音波検査などの画像診断を行い、必要に応じて乳頭分泌物細胞診、穿刺吸引細胞診など

質的診断も実施している。

より良い精密検査の実施のために、日本乳癌学会、日本乳癌検診学会が共同で2009年11月に「乳癌検診の精密検査実施機関基準」を作成したが、本会の乳腺外来はその実施機関基準を遵守し、受診者が安心して適切な診断を得られるように努力している。

乳がん患者数の増加や社会的な要望の高まりにより、外来患者数は飛躍的に増加しており、最近では予約数の増大のため円滑な外来運営が困難になってきた。このため、検診からの経過観察症例のうち、正常例や軽症例は速やかに検診へ戻すようにして、精密検査などが必要な患者が速やかに受診できるよう予約枠の確保に努めている。

外来受診者でさらなる精密検査や治療が必要な人には迅速に病院を紹介し、経過観察が必要な人には安心して適切な間隔で検査を受けてもらうように配慮している。紹介先の病院については、以前は本会で病院を指定することが多かったが、受診者の利便性やご希望に沿うよう都内多数の基幹病院と連携し、受診者がより良い治療を受けられるよう配慮をしている。担当は坂佳奈子医師である（詳細は乳がん検診の項〔P191〕を参照）。

## 消化器外来

胃レントゲン検査からの異常例について、胃内視鏡検査を実施している。

2009年、消化器外来受診数は2,348人である。このうち内視鏡検査実施数は1,684例、うちバイオプシー（生検）は457例（27.11%）であり、発見胃がんは16例、食道がん2例であった。当クリニックにおける胃がん発見率は要精検者の0.95%であった。年度別の発見胃がん数は経年的に減少傾向にあるが、近年の消化器外来受診者数の減少に加えて、逐年検診の結果と考える（表2）。

腹部超音波診断から抽出した要精検例については、国立がん研究センターと連携して精密検査を実施し、肝臓がん、胆道がん、すい臓がん、腎細胞がん、その他、比較的稀有な症例を発見している。詳細は超音波検

表2 年度別の消化器外来の受診者数と  
上部内視鏡件数・生検数・がん発見数

年度	消化器外来 受診者数	上部内視鏡 件数	生検数	(1998～2009年度)	
				胃がん 発見数	食道がん 発見数
1998	8,399	1,671	1,140	40	
1999	7,459	1,549	1,004	28	
2000	6,936	1,610	941	42	
2001	6,574	1,739	1,111	29	
2002	6,635	1,679	931	23	
2003	4,278	1,531	757	18	
2004	4,113	1,623	737	10	
2005	4,027	1,743	708	21	
2006	3,870	1,695	697	18	
2007	2,277	1,514	561	13	
2008	2,379	1,611	556	26	
2009	2,348	1,684	457	16	2

査の項（P103）を参照願いたい。

さらに、便潜血反応陽性者には積極的に大腸内視鏡検査機関を紹介し、追跡調査を実施している。この結果、2009年は20例の大腸早期がん症例を発見している（詳細は大腸がん検診の項〔P167〕を参照）。

一方、筆者は東京都に肝臓専門医の届出を行い、肝臓専門外来を実施している。B型肝炎にはエンテカピルの薬物療法、C型肝炎にはペグインターフェロン、リバビリンの併用療法を中心に実施し、特にB型肝炎症例の治療例が増加している。

## 婦人科外来

長谷川壽彦医師、伊藤良弥医師を中心に診療を実施している。東京都産婦人科医会の会員より紹介された受診者および本会施設で実施した地域住民と職域の1次検診で子宮頸部細胞診のパパニコロウⅢa以上の受診者を対象にコルポスコピー検査、細胞診および組織診を併用して子宮頸がんの早期発見に努めている。（詳細は子宮がん検診の項〔P171〕を参照）。

## 代謝外来

大和田操医師が担当しているユニークな外来である。新生児マス・スクリーニングから抽出したアミノ酸代謝異常症（フェニルケトン症など）や学校保健における検診で抽出した2型糖尿病などを対象に、小児から成人に至るまでの成育医療を実施している。

### 禁煙外来

2007年4月に禁煙外来を新設した。新設当初は患者数が多かったが、2009年度は53人に減少した。チャンピックス(経口剤)を用いて治療を実施しているが、コンプライアンスが良く禁煙成功率は昨年同様に約87%である。

### 睡眠時無呼吸外来

2008年7月に睡眠時無呼吸外来を新設した。加藤正一医師が診療を担当しているが、時代に呼応して外来受診者の増加(前年比139.5%)を見た。

### おわりに

当クリニックの特長は、地域を中心とした一般診

療とは異なり独特な形態を有している。受診者の多くは、本会の人間ドック受診者、住民健康診査受診者、定期健診受診者の中で要精密検査と指摘された人のうち当クリニックでの受診希望者である。このため、受診者の居住区は都内から近郊まで多岐におよんでいる。この精密検査の多くはがん診断であり、当クリニックではその手段として、上部内視鏡検査、腹部超音波検査、胸部CT検査、マンモグラフィ、乳腺生検、コルポスコピー検査などを具備し診断に供与している。さらなる診断困窮症例は医療連携病院に紹介、がん診断の追跡調査を合わせて実施している。この結果、陽性反応適中度(発見がん数/要精検数)は年々上昇している。クリニックではあるが、がん検診精度管理向上の一翼を担っている機関である。